

研究・調査報告書

報告書番号	担当
206	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
The relationship between alcohol consumption and cortisol secretion in an aging cohort. 老年者コホート研究における飲酒とコルチゾール分泌の関係	
執筆者	
Badrick E, Bobak M, Britton A, Kirschbaum C, Marmot M, Kumari M	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Endocrinol Metab 2008;93:750-757.	
キーワード	
alcohol consumption, hypothalamic-pituitary-adrenal axis 飲酒、視床下部-下垂体-副腎系	
要 旨	
<p>目的： 飲酒と視床下部-下垂体-副腎系の活性との関連ははっきりしていない。飲酒と唾液腺のコルチゾール濃度との関連を検討する。</p> <p>方法： Whitehall II研究の第7段階 (2002-2004年) における飲酒とコルチゾールの関連を検討する断面調査を行った。1985-1987年に集められた職域のコホートが対象である。2693人の男性と977人の女性で、起床時、起床30分後、2時間半後、8時間後、12時間後、就寝時における唾液腺のコルチゾール濃度と飲酒に関する情報を集めた。</p> <p>結果： 男性では1週間あたりの飲酒単位とコルチゾール濃度は正の関連があった (アルコール1単位増加するごとに3%のコルチゾール濃度の上昇があった; p値=0.010)。一日の周期でのコルチゾール分泌が減少する傾きは多量飲酒者では少なく (多量飲酒者のβ値; -0.155、中等度飲酒者のβ値; -0.151)、多量飲酒者では視床下部-下垂体-副腎系の統御機能が低下していることが示唆された。女性ではコルチゾール分泌の起床に伴う増加は中等量飲酒者の8.69 nmol/l (7.72-9.67) に比べて多量飲酒者の14.15 nmol/l (9.12-19.17) と多かった (p値; 0.037)。</p> <p>結論： 本研究により飲酒と視床下部-下垂体-副腎系の活性の間に関連があることが示唆された。以上の結果はその日一日の飲酒とは関係がなく、多量飲酒者における視床下部-下垂体-副腎系の慢性的な変化を示すものである。</p>	